

去年、軽い気持ちで参加した国内研修の島前合宿は、ただただ先輩方の人脈や経験に頼り、なにも知識がない状態だったので島での暮らし、島での教育、中学生との交流、島の人との関わり全てが初めて経験することだったので新鮮だった。その国内研修を、今年またわたしたちがリーダーとなって開催するか、決めていいよと先輩方に言われた時、去年のように人脈は持っていないし、なぜ今年も島に行こうと思ったの？と聞かれたら私はなんて答えるだろうと思い、それが思い浮かばず、とても迷った。去年参加した2年生女子で話し合いをし、今年も「なんとなく」で開催を決めてしまった。去年は、先輩方が決めてくださったプランにただただついていって充実感のある日々を過ごしたのだが、実際自分たちでプランを考えるのは本当に大変で、行き先行き先にアポを取ったり、時間や金額を計算したりと、慎重かつ速くやらなくてはいけないことが多く、島前合宿このままで大丈夫なのか、と不安になる毎日だった。社会問題論の授業の時間を少しお借りして島前合宿のPRをしたり、各基礎ゼミの時間をお借りしたりと、島前合宿の参加募集がうまくいって、説明会に沢山の一年生がきてくれたときは本当に嬉しかった。また、2年生も、去年参加した女子4人しか居なかったものが、男子2人が快く参加を決めてくれて、このメンバーで絶対島前合宿を成功させたいと思うようになった。

島前合宿において、私が一番印象に残っているのは、西ノ島町にある福祉施設シオンの園を訪問したことである。去年はそのようなプログラムは無く、今年は福祉分野のプログラムも取り入れたいという意見から西ノ島町にある老人ホーム、障害者支援施設、保育園があるこのシオンの園へ行くことが決まった。この場所は初めて訪れる場所であり、情報などが少なく、また、私は老人ホームに行くことになっていて、正直行く前は、東京から来たよそ者を利用者さん達が受け入れてくれるだろうか、島ならではの福祉のあり方について質問をしたところで、島を馬鹿にしていると思われないだろうか、などとネガティブな心配をしていた。しかし、実際に訪れてみると、施設の方や利用者さんたちが暖かく迎えてくれて、安心した。私がまず最初に驚いたことは、施設の利用者さんが少人数であるということだった。普通の老人ホームはもっと人数がたくさんいてワイワイしているイメージだったが、シオンの園では10人を上限として小規模でこじんまりとした家族のような老人ホームを目指していると施設の方がおっしゃっていた。島の町で見る人や、バスに乗ってくる方を見ていると、お年寄りが多いという印象はもちろんあり、上限が10人では老人ホームを利用したくても利用することができない人が島にたくさんいるのでは、と考えていたが、今まで10人を超える人数の入居希望は来ることがないと聞いて驚いた。何故そこまでこだわって少人数のグループにしているのか気になり、施設の方に質問させていただいたところ、少人数にすれば、利用者さん同士や、利用者さんと施設の方の間の絆がより深まり、家族のような関係が築けるという応えをいただいた。一般的によく見かける老人ホームでは、人数が多く、なかなか利用者さん個人個人が密に関わるのが難しい。また、利用者さん全員でなにかゲームをしたり、ものを作ったりというようなことが難しく個人個人での生活リズムになってしまっておっしゃっていた。シオンの園では、毎朝、利用者さんたちが全員到着すると1時間、お茶を飲みながら世間話をする時間が設けられていたり、みんなで老人ホームの飾り付けを季節ごとに作ったりと利用者さん同士がコミュニケーションをとり密に関係が築けるような仕組みになっているとわかった。また、利用者さん同士の他にも、少人数だからこそそのメリットという点では、利用者さんの家族と職員さんが密接な関係を築くことができるという点である。小さい島だからこそ、島の中でのコミュニティの活動が厚く、利用者さんの家族と何かしらの知り合いであるということが少なく無いとおっしゃっていた。少人数のため、利用者さんひとりひとりの家庭のことを理解することができ、利用者さんの家族ともこまめに連絡を取り合い、信頼関係を作っているというお話が聞けた。最近ニュースなどで福祉施設での職員による暴行などといったニュースをよく耳にするが、少人数でありかつ小さな島であるからこそ信頼関係が大きいということを知ることができた。

利用者さんだけではなく、職員さんのことについては、少人数でのケアのため、シオンの園で職員がたりないということにはなっていないが、他の大型の施設などでは、職員が不足しているという話をさせていただいた。シオンの園の、職員さんは全員で3人いらっしゃるが、3人全員が、島で生まれ育ったが、本土の方で仕事をして、縁があって島に戻りこの仕事についてとおっしゃっていた。島の中では、高校を卒業し、大学進学する場合は本土に行き、若いうちは本土で様々な経験をして、ある程度年齢を重ねたら島に帰りまた就職をするというような教育を親から受けている人が多く、なのでこのような福祉職をする若者が不足しているという話をしてくださった。島には大学が無いので、若者が島で暮らすというのはなかなか厳しいとその話を聞いて実感した。

島の教育という面で印象に残っているのは、西ノ島中学校での授業である。これは、去年も同じように授業に参加させていただいたので、どのようなことをするかなどは大体把握していたが、去年とは全く違った感想を得ることが出来た。私が担当したのは男の子1人、女の子1人で、高校受験に向けて勉強をしなくてはならないのはわかっているけど、何をしたらいいのかわからないと言っていた。私は中3の頃同じような思いを経験していて、2人の気持ちが痛いほどわかり、部活引退した自覚がまだ持たずぼんやりしていた中3の頃を思い出した。なかなか上手なアドバイスは出来なかったが、2人これから納得のいく結果になるように勉強することが出来れば、と思った。また、そのあと自分が担当した中学生のほかにもたくさんの中学生と交流する機会があり、その時に話した中学

生が、あえて道後にある高校に行きたいと話してくれたことが印象に残っている。西ノ島中学校の中3はほとんどは海士町にある島前高校に進学するのになぜわざわざ島後に行くのか聞いたところ、今までとは全く違ったコミュニティで過ごしてみたいからと言われてとても驚いた。もし私が西ノ島中学校の中3だったら、環境が変わってしまうことに恐れ、人間関係において楽をしようと、いままで保育園や小学校からずっと一緒に過ごしてきた仲間の多くが進学する島前高校を選ぶと思ったからだ。自分からそのようにチャレンジする心を持っているその中学生の話を聞いて、逆に私が学ばされた気がした。

今回の合宿では、島の教育や福祉のあり方により深く関わることができた。また、このように島前合宿を何事もなく無事に終えることが出来たのは、一緒に必死で企画を考えてくれた2年生女子や、いざというときに料理や作業で活躍してくれた男子、なかなか私たちでは気づくことが出来ないようなことや行き届かないが多かったところをサポートしてくれた1年生女子のおかげであると感じている。このメンバーのおかげで、島での滞在での毎日は笑顔で溢れていたし、とても充実したものになった。島での暮らしは、交通はもちろん、食の面や様々な面で不便であり大変なことも多かったが、同じ日本に住んでいる身としてこのような生活を知ることとはとても大切だと実感した。私はきっと大学在学中はもう島に行くことはできないと思うが、大人になり、就職したらまた島前に行けたらと思っている。